

## 議会運営委員会

令和7年1月20日（月曜日）午後2時30分開会

### 出席委員（8名）

委員長 鈴木伸彦  
委員 室井孝幸  
委員 星宏子  
委員 相馬剛

副委員長 森本彰伸  
委員 小島耕一  
委員 平山武  
委員 中村芳隆

### 欠席委員（なし）

### オブザーバー（2名）

議長 山形紀弘

副議長 眞壁俊郎

### 説明のための出席者（なし）

### 出席議会事務局職員

事務局長 高久修  
議事課長補佐  
兼庶務係長 小高久美  
主査 石田篤志

議事課長 岩波ひろみ  
議事調査係長 長岡栄治

### 議事日程

1. 開会
2. 挨拶
3. 協議事項

①議員定数の検討について

②その他

4. その他

次回開催 2月14日（金）午前10時00分～ 303会議室

5. 閉会

開会 午後 2時29分

〔「1から5というのは」「表記がないので」と言う人あり〕

### ◎開会の宣告

○鈴木委員長 皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は大寒ということで、大寒の割には暖かくという感じで、地球温暖化が進んでいるのかなど、そんな話を。

この前、ちょっと余談ですけれども、全協で、木材を建築に使うなんていう、するという話だったんですけども、地球温暖化防止と地域木材振興ということでしたけれども、木を使うだけに、配分率というのは気を遣うなという気がしました。

では、その前に言うことがありました。傍聴者がおられますので、当委員会の傍聴希望があるようです。議会基本条例第7条により、議会の会議は公開を原則としております。また、委員会条例第17条及び先例に基づき、これを認めます。

では、改めまして、議会運営委員会を開催いたします。

—————◇—————

### ◎委員長挨拶

○鈴木委員長

—————◇—————

### ◎協議事項

○鈴木委員長 それでは、お忙しいところお集まりいただきましたが、早速協議事項のほうに入ってまいりたいと思います。

では、次第にございますように1から5まで、①番、議員定数の検討についてですが、1から5番までありますが、皆さん、届いていますよね。

○鈴木委員長 ないんですね、分かりました。

では、この前、議長から提案で、議員定数の削減について議運で検討してほしいということなものですから、皆さんに早速お集りいただきました。選挙までとなると日数が少ないので、大急ぎやるということで集まっていただきました。

では、早速入りたいと思います。

単純に、議員定数を変えるべきか、このままでよいかということについて、会派でお話ししてきたかと思しますので、その点について中村委員のほうから反時計回りで各会派の意見お伺いしたいと思います。

じゃ、中村委員、お願いいたします。

○中村委員 じゃ、うちのほうから、会議をさせていただきますまして大体まとめてまいりましたので、発表したいと思います。

うちのほうは、この前期の議会運営委員会で決めたように、しっかりと議論をする。そして、今回は改正をしないで、議論の上、どのような形で、どのような人数で、どのような皆さんの御意見をつくっていくかというものを、次期新しい議員に、皆さんで議論していただいて決定するというのでよろしいんじゃないかということで決定をさせていただきます。

○鈴木委員長 確認しますと、今回はなしで。

○中村委員 今回、日にちも少ないし、議論して何名、定数だとか、どういう形の決定がいいかということ議論はしてもいいかもしれませんが、来期に任せましょうという形です。

○鈴木委員長 分かりました。ありがとうございます。

続いて、志絆の会、お願いします。

○小島委員 志絆の会で検討いたしました。基本的

には、今、中村委員が言ったように、変えないほうがいいのではないかという意見もございましたが、今回の不祥事等もあります。そういう中では、ある程度の議員定数を減らしたほうがいいのではないかと。基本的にいう方向でございまして、減らすとすれば2減ぐらいが最低ではないかというようなことで、やはり今回の不祥事については、市民からの議会に対する目も厳しいというようなことがございますので、そういうことを鑑みて、2減は仕方ないのではないかと。私は、基本的には議員定数を減らすのは好きじゃないですけども、この状況を鑑みると仕方ないのではないかという意見が多かったということでございます。

以上です。

○鈴木委員長 じゃ、今期で減らす方向でいいのではないかということですね。分かりました。

公明さん、どうでしょうか。

○星委員 今期は減らしたほうがいいという意見と、減らさないほうがいいという意見と、本当に分かれまして、あと、判断していこうかなという部分ではあったんですが、やはり市民に対しての……今回は、今期はもう減らすということで。

○鈴木委員長 では、敬清会、平山委員。

○平山委員 うちも結論から言いますと、今期は減らさない。来期の議員で検討する。時間もないと。いろんな事件の話もありますが、この辺も含めると相当数の削減をしないと市民は納得しないと、そういう考え方もありますので、なかなかそれは不可能だと思うので、今回は減らさない。

○鈴木委員長 分かりました。

では、相馬委員お願いします。シン・那須塩原。

○相馬委員 シン・那須塩原としましては、今期削減するという方向で合意をしております。

○鈴木委員長 分かりました。ありがとうございます

す。

話の流れとして、変えるほうがいいのか、定数、4月削減にいくか、減らさないで改選後にするかというところだったんですが、今の意見ですと、会派の数でいう、会派的には減らさないほうがよいという意見が多かった。

〔「逆です」と言う人あり〕

○鈴木委員長 サステイナさんは減らさないですね。

〔「3対2ですよ」と言う人あり〕

○鈴木委員長 減らさないということですよ。

〔「減らすということですよ、反対に減らすということですよ」と言う人あり〕

○鈴木委員長 公明さんは減らす。そこで間違った。

3対2で減らすということですけども、これは皆さんの会派のざっくりした意見として、これで多数決を採っていいかというふうにすぐいかないのいいと思っていますので、もう少し審議してからの方がいいのかなと思うんですけども。それで、もう一つ、一人会派というのは今何人いるんだっけ。

〔「6人です」と言う人あり〕

○鈴木委員長 6人いるんだそうです。来てもらったのは5人だね。

〔「意見は全部もらっています」と言う人あり〕

○鈴木委員長 意見は全部もらってまして、1時間ほど前にやっています。その中で結論だけ言うと。皆さんのところに届いていますか。

〔「資料、今、通知させていただきます」と言う人あり〕

○鈴木委員長 これはあくまで、あくまでと言うと一人会派の方に失礼な言い方、一人会派さんの意見も必要だと思ってお伺いした場合の、これは答えでした。議員定数を変えるべきか、そのまま

よいかということについては、はるひさんは今のままでよい、佐藤一則さんも今まで。

〔発言する人あり〕

○鈴木委員長 はるひさんは、令和5年度の全協の決定を遵守すべき、減らしても信頼回復にならない、する必要はない。

佐藤一則さんは、今まででよい。既に議運で調査し、全員で検討した結果、現状維持で決定している。

益子議員は、定数は変えるべきだ。過去に不祥事を条件に検討することを決めている。また、市民へのけじめとしてということです。

三本木議員は、定数削減は邪道と考えるが、けじめのためにやるべきだ。

林美幸議員は、定数は変えるべきだ。

堤正明議員は、今のままでよい。本市は面積が広いので、市民の声が届きにくくなるため。3月議会の中で決定事項を審議しますというような御意見がございました。

こういう意見があつて、皆さん、それぞれ意見が違う。会派の中でも意見が分かれているということ踏まえると、時間的な話でいうと急いで決めていかなければ4月の選挙に間に合わないということもあるので、ちょっと委員長として今日どう進めていくか。この後。

もう一つ、決定方法に問われていたのが、全会一致か過半数かということも決定するには重要ではないかと思うんです。

最終的には、本会議に上程された場合は過半数で決定される。それは間違いない、それは変えられないということは前提なんですけれども、もう少し会派の中でも、会派の中の人数が違うということも踏まえて、もう少し意見を、ほかの会派の意見を聞いた中で、もう少し皆さんの意見を、やっぱりこうではないかということがあれば改めて

発言をしていただいて、ある程度皆さんの意見が一つに近くになるようにしていきたいなというふうには考えておりますけれども、そういった上で、ほかの会派の皆さんの意見も聞いた上で、発言があればお伺いしたいと思います。

小島委員。

○小島委員 基本的に決定方法は全会一致というのは無理だと思います。そういう面では、多数決以外に今回のやつを決める方法はないと思います。

以上です。

○鈴木委員長 減らす減らさないということもありますけれども、ここで決定していかなきやいけない、先に進めなきやいけないという意味では、全会一致は難しいだろうという、そういう意見も出ました。

そういったことも含めて。先送りはできないので、結論は。

○中村委員 今、多数決で過半数以上ということは、確かに民主主義ですから数の原則というのは尊重しなきやいけないと思いますが、やはり過去の定数削減とか、議会基本条例をつくる時も、議会議員同士でかなり議論をして、定数何名にするか、それで何回も何回も繰り返して、おおむねの議員が理解をした上で、そのようにして施行された経緯がございます。

ですから、急に案件が出されました、すぐに過半数やっていいということになりますと、ちょっと乱暴な面もあるので、その点は少し皆さんで慎重に考えて、しっかりと議論をして、じゃ、何名定数がいいんだと。22名の人もいるだろうし、20名まで下げてもいいという考えの方もいるかもしれない。そういった意見もいろいろ聞いた中で、時間をかけて、それで皆さんが理解をして、何名ぐらいが妥当だろうというものをしっかりと議論をした上で、その上、皆さんがおおむね理解しま

したねという形を取っていくのが、私は、急に  
出されて、間もなく2月に入ろうとして、議会に入  
るわけですから、そういうものを踏まえた中で、  
皆さんに理解をして変えていくということも一つ  
の議論の仕方があるんじゃないかなと、こう思っ  
ています。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

まず、フローチャートじゃないですけども、  
定数削減をするという中で、じゃ、進めるなら何  
名減らすとか、そういう話の持ち方もあるし、何  
名減らすのはいいのか、あと、議員どうあるべき  
かということ考えた上で、きちんと定数削減を  
検討しろという、やはり時間考えると改選後の  
ほうがいいんじゃないかという話の中だと思うん  
ですよ。

今、私に振られている時間というのは、もう多  
分この1月で決めなければ、定数削減の事務的な  
手続もできないと思っているんです。そういう状  
況の中で、今、進行しなきゃいけないんですけれ  
ども、今、言ったように、中村委員のお話のよう  
に、本来あるべきものを慎重に、何名がふさわし  
いのか、議会とはどうあるべきでということをも  
きちんともう一度検討して、一人一人の議員の意  
見を吸い上げようとする場合は、それを今月中に  
できるかとなるんですけれども、そこを重要視す  
るのか。

もう一つは、今回、今、誰も言いませんでした  
けれども、不祥事に対して、公明党の星委員がお  
っしゃっていましたね、今回の件を踏まえて、や  
っぱり議会としてどういう姿勢を、議会として市  
民に姿を見せるかみたいところを考えると、そ  
ういう意味ですよ、星委員。

○星委員 そうです。

○鈴木委員長 2名は減らさないと、議会として。

途中でですけども、どうぞ。

○中村委員 減らすということで万が一決まって、  
じゃ、不祥事が理由であったということであれば、  
じゃ、不祥事に対して2名が妥当なのか、3名が  
妥当なのかとか、1割減らすだけでも26人です  
から3名になっちゃいますし、そういった市関連の  
人口割に対しては、それで本当にいくのが正しい  
のかとか、そういった部分もやっぱり議論をして、  
せつかく改選するんですから、やっぱり意見を皆  
さんで何回も何回も繰り返してやって、忙しいか  
もしれませんが、委員長さん、何回も何回も招集  
かけてあげて、それで煮詰めていって、それで間  
に合うというのであれば私はよろしいんじゃない  
かという話なんです。議論をしましょうと。

ただ、こういう事態が出たので、定数でやりま  
す、はい、何名ですということ、じゃ、何名を  
決めるんだって、今のこの委員で多数決でしか決  
められないでしょう。やっぱり議論を尽くして皆  
さんが、2名がいい、3名がいい、1名がいいよ  
とか、前は2年ぐらい議論して、24名と28名の中  
で26に決まった経緯がございます。そういうもの  
を考えると、全会一致というのは決まるわけな  
いんですから、おおむねの方、皆さんが理解を示  
した中で、改選後しっかりお示しをすると。

中には、参加されない方で、足利が21人です  
から20人でもいいんじゃないかという方もいる可  
能性もありますし、人口割からいったら23ぐらい  
が適当じゃないかとか、22人が適当じゃないか  
という事はもう分かり切った話なんです。今まで  
にそういうものは出なかったわけで、それをこの  
間、前回の議運の方が次回の改選で皆さんで決  
めましょうと言うから、我々は理解を示して、今、  
今日まで来たという経緯がございますので、そう  
いったものと不祥事といろいろ重ね合わせた中  
で、皆さんで議論を重ねていくのが私は筋じゃな  
いかと思っています。

ですから、議長も、今週中にとか、来月中にとか決めろという指示じゃなくて、議論をしなきゃいけないんじゃないかということで、私は議会運営委員会に提示されたのかなという気はいたしていたので、やはりみんなで議論して、おおむねの方が理解を示す中での施行がよろしいんじゃないかという私の意見でございます。

○鈴木委員長 今の意見に対して、減らしたほうがいいんじゃないかという、または、減らさないほうがいいという意見の中での考え方なので、減らしたほうがいいという幾つかの会派の方があったと思うんですけれども、今のことについて異論というか、改めてもっと討議したいと思うんですけれども、御意見ございましたらお願いしたいんですけれども。

相馬委員。

○相馬委員 まず、議員定数の削減というか、議員定数の在り方ということについて、令和3年、4年、2年かけて議会運営委員会で検討をした経緯がございます。そのときの決定事項が、前回、資料として出されたものがあると思います。これについては、令和5年3月16日で、この内容については議員全員協議会で決定された内容があると思います。

そのときに、削減をするという議論でございましたので、削減の項目について、こういう状況、こういう状況があった場合は削減しようということがありました。また、さらに議運で協議をするための要件というのが6項目ございました。そこに那須塩原市議会での不祥事という項目もございました。

こういったことで、現実にもそういったことが起きたわけでございますので、今回、議長のほうから議員定数削減についての検討をしてはというようなことだったんだろうというふうに思いますの

で、今年の4月の選挙の次の選挙ということもございしますが、今、現状、市民からの意見、私個人的には今日の午前中も言われてきましたが、今のままでいいのかというようなことも言われてきてございますので、時間的に非常に厳しいということは分かりますが、やはり議会として市民に、こういうふうなことでという表明をするという意味でも、削減、次回の選挙で削減していったほうがいいだろうというふうに思います。

これについては、2年間かけて議論をした結果が出ておりますので、そこに議会での不祥事があった場合という項目がございますので、それを鑑みますと、やっぱり削減すべきだろうというふうに思います。

以上です。

○鈴木委員長 不祥事があった場合、あったと、市民に姿勢を見せるという、公明さんと同じようなことかなと思います。

そのほかございますか。

小島委員。

○小島委員 最初に言いましたように、多数決でしか決まらないだろうということをまずは前提にしますけれども、事務手続からいって1月中に決めなければ、これは決断できないわけですよ。そうなりますと多数決をやるしかない。全員協議会をやってそこで決めていく以外には方法論的にはないと思います。議員全員協議会を開いてやっていく以外に。

○鈴木委員長 全員協議会でいいんですね、今の。

○小島委員 議員全員協議会だと思います。それをやらない限り多数決はできないわけです。本会議にしますか、それとも。

〔「本会議では条例改正で可決しなければならぬので」と言う人あり〕

○小島委員 ですから、全員協議会を開催して、手



最終的な議決、本会議で決定する。そこが通れば何ら問題ないというふうには思います。

全協を通す通さないというのは、今までの経過でいえば、通常は出しているよというだけなので、絶対出さなければならないという条件ではないと思います。

○鈴木委員長 あくまでも本会議で上程されて、議案として出て、出されたものを採決すれば過半数で決まる。それぐらいですよ。全協は確かに確認作業はするけれども。

○長岡議事調査係長 スムーズな議事進行の為には、通常ですと、これまでですと、通常は全協でやってから本会議で上げているという経過があるということだけで、全協がなくても仮に議決をすればそれは……

○鈴木委員長 小島委員。

○小島委員 よく定数削減という話になると、かなり早い時期にアナウンスするという話がありますよね。アナウンスをして。要は、次の選挙では何人定数ですのという話が出てきますので、そういう中でいくと、3月議会でいいかどうかというところは若干残ると思うんですよ。

ただ、その定数が3月議会で減るよということでもいいということであれば、3月議会まで持ち越しちゃってもいいんですけれども、その前にある程度アナウンスするときに今回の選挙の。

必要かどうかというところが、そうするときには早めにアナウンスしたほうがいいのかどうかという判断とすると、1月中に議員全員協議会で決めるという方向も。

〔「全協で決まったってアナウンスできないですよ」と言う人あり〕

○小島委員 じゃ、2月の本会議を開催してというものもありますよ、早めに。

○鈴木委員長 ちょっと委員長の立場でいうと、今、

何名かいいかという議論もきちんとできていない。それから、小島委員が言うように、アナウンスというものも大事なんではないかという意見もあります。

そういうことも踏まえた中で、今、もう一つあるのは、もう最初からあるのは、不祥事に対して信頼回復するには、この方法がいいのか、ほかにもあるのかという審議もされていない中で、今、ここに振られているのは、信頼回復のために議員定数を減らす方法はどうかということで、今、定数削減をしているんだけど、審議することは今たくさんある。

私は、それを振られてこれから会を重ねてやっていかなきゃいけないというのもあるので、平山武委員が先ほどおっしゃったように、半数ぐらい減らさなきゃ市民が納得しないんじゃないかみたいな、ちょっとそれは分からないです。人数をばっと減らさないと市民が納得しないんじゃないか、そういう意見もある。

それをきちんとまとめないで、単純に、じゃ、減らしましょうだけで、今、進んでいっていいのかというところが、ちょっと私は委員長として不安なんですよ。

何人にしますかというのは、多数決でやっていくとどんどん進むんで、みんなそれでやりましょうと言えば私は採決していきますけれども、そのところを本当に信頼回復、私が言っていることですから、信頼回復のためにやっているのか、本当に、今、無駄なのか。市民にとってこの人数が多いのか。あと、経費がかかり過ぎているのかという議論もない中で、それを次回で、前回議運で決めたことは、それを今期じゃなくて改選後にやりましょうというのは前回の資料のとおりなので、それと、今回の件とを両方加味しなきゃいけないということなんですけれども、そういった考え方、



これは委員長としてはちょっと時間がない中で、大事なことをすっ飛ばしていったいいのかというのは、ちょっとどうこれから会議を進めていいかというのは不安なんです。

中村委員。

○中村委員 委員長が言うように、やっぱりしっかり議論をして、皆さんが理解を深めるということはまず第一でありまして、その手順に沿ってやっぱりやっていくということが、だから大事だと私は思うので、私、それを言っているわけです。ですから、定数削減というのは、やっぱり本当に大事なことでございますので、やはり議員が皆さん理解して。だから、不祥事ですよというんでみんなが理解すれば、定数何名ですかという段階に入っていくわけですよ。それをやるのかどうするかというのをその前に決めたい。

いろんなものを決めていく中での、私が一番心配するのは、日にちがあまりないので、議論を深めるのに時間が足りるかどうかということはおいて、今、そういったものをいろいろ加味した中で進めていくというのを早急にやるんなら、毎週、毎週やっていく。それをこの議会運営の中である程度煮詰めて、それから私は、その合意形成がされたら全員協議会にでも説明する。いろんなものを条例改正に持っていける。手続に入っていくんじゃないかと私は思っているんですよ。

○鈴木委員長 公明党さんは削減ということだったんですけども、議論を深めるという意味でもう一度お考えがあれば。

○星委員 前回、要は、令和5年3月16日に決まったこの議員定数の在り方ということは、2年かけてその前の議運でも検討されて、本当でしたら、やはり今期で削減というふうなことも含めての議論だったと思うんですよ。前回のその議運でのその議論というのは。

でも、やはりなかなか皆さんの賛同も得られないという部分もあって、まだ改選後の、要は投票率だったりとか、あとは、成り手がいなくて、結局無投票になってしまったとか、削減協議というところにもかなり詳しくは書いてありますけれども、削減定数確定事項の中に、無投票か人口減少かということも含めて協議も何か決まっているわけなんですけど、その議運で協議の中で6番目にあるこの不祥事ということが、ここに関してははまってくるのかなというところでは、やはりもう協議をし尽くした上でこの状況をつくっているんで、それを執行する期間が早いか遅いかだけの、改選後か改選前なのかというだけであると思いますので、これに当てはまるのであれば、やはり改選前に2減ということでもいいのではないかと思います。

○鈴木委員長 しかも2減という。

○星委員 削減人数は2名以上とするという条件、書いてありますので。改選後にまたさらに議論はしてもいいと思います。先ほどのもっと減らしてもいいんじゃないかという意見もありますので、そこはまた改選後に協議してもいいと思います。その改選後のまた結果を見て、投票率だったりとか、または成り手を見て、何人が立候補したのかとか、そういったことも全部含めてもう一度また協議をしてもいいのではないかとはい思います。

○鈴木委員長 森本副委員長。

○森本副委員長 私、前回のその議運にもいたので、そのときの話というのは、かなり削減のほうに、多分、当時多数決したら削減だったのかなというぐらいの人数。当時は、議会運営委員会は極力全会一致という、絶対じゃなかったんですけども、極力全会一致という話合いの中で反対する人がいたんで、その中でこの妥協案として、翌選挙、令和7年度の選挙の後にもう一度議論しましょうと

いうのはなったんです。かなり定数削減に関しては、ある意味で議論はしてきたのかなというふうには思うのが一つです。

今回、信頼回復するために、じゃ、どうしたらいいのかという話になったときというのは、議長は、基本、その信頼回復の案は出せていないんです。結局、どうやったら信頼回復できるかといっても、出してきたこの4つ出された中で、結局、定数削減は今期の可能性を残したまま、残りの3つに関しては来期の議運に託すという形になっています。

そして、これを、定数削減をしないというふうになってくると、今回の那須塩原市議会は、玉野さんのその不祥事、今回の窃盗疑惑という不祥事、この2つの不祥事がある中で何もしなくていいのかというのは、市民からは絶対に言われると思います。何にもしないで結局終わらせたんだねというふうになるということは、皆さん、分かっていると思いますか。分かっているかというふうには思っています。

私は、副委員長という立場で、恐らく自分の意見を言う立場ではないのかもしれませんが、私はこの那須塩原市議会議員の一人として、ここはやはり何かしらのアクションを起こさなきゃいけない。当事者である議員は、皆さん、ほっかむりして結局は何も言わない、何もしないという状況という部分を考えて場合に、市議会全体として、じゃ、何ができるんだ。だからこそ前回の議運のときに皆さんに、会派に持ち帰ってしっかり議論をしてくださいということをお願いしています。

今回、答えを持ってきてくださっているわけですから、全ての議員の意見は吸い上げていると私は見えています。

それでも議運は、結局全ての議論を交わしているわけじゃないという部分があるかと思います。だからこそ、この前の時間帯で一人会派の方々が

ら話を聞いて、それぞれ反対の意見、賛成の意見、両方ある中で、反対するというのはいくら理由だから反対なんだよということも伝えていますが、しっかり。賛成する人たちの理由も、こういう事情だからやらなきゃ駄目なんだよという意見も書いています。

それを皆さん踏まえた上で、さらにもっと議論が必要だからって先延ばししていいのかということも考えてもらいたい。今までこれだけ議論してきた中で、前回の2年間でこの定数の削減に関しても議論をしてきました。今回、各会派全てに議論を振りました。一人会派の方々からも御意見をしっかりといただきました。でも、まだ議論足りない。2年すれば3年すれば議論が足りるのか。

それとも、しっかりとその間で皆さんが議論を、短い時間でもしっかり皆さんの意見を吸い上げてきたのが議論なのかというのを、そこも考えてもらって、ぜひ発言をしていただけたらなというふうに思います。

○鈴木委員長 平山委員。

○平山委員 副委員長に聞きますけれども、中村委員からもさっきもありましたけれども、今回じゃなくて前回の改選前、24とかという意見もあったんですよね。それは26にしたんですよ。そしたら、24の意見もあったので、その間にずっと検討はしていましたか。前期の2年間の議運の中では。それは検討しましたか。その結果で減らす方向でいけたんですか。それが何か途中で変わった。

○森本副委員長 議運に反対がいたからです。全会一致を目指していたんで。

○平山委員 実際に今いろいろ聞きましたけれども、今回ほとんど2ということでしょう。市民の感情でどうのこうのって、2でしょう。定数が2、空いているんですよ。今の議員には痛みも何もないわけね。責任があるんだったら。そういうことも

踏まえてよく考えないと、簡単に2名減らしたら責任取りましたとか、議会の態度として誠意を示したことになるのかなって私は思うんですよ。その辺もよく考えてやらないと、本当に自分を犠牲にして。たまたま2名が減になっているので、現職の議員は何も影響がない。

○森本副委員長 そんなことないです。全員が厳しい。

○平山委員 もちろん選挙だから全員厳しいですけども、そういうことになって市民が果たして2名で。いろんな意見、一人会派などでも2つに分かれているわけでしょう。数の1票差か2票差でこれを本当に決めちゃっていいのかねって。ある程度のコンセンサスはないとまずいんじゃないですか。ここで例えば簡単に決定して、はい、そこでいきましょうというわけにいかない。時間はちょっとかかるわね。そういうのも踏まえて。

市民はよくもう情報知っていますから、市民の中にもいろいろな声があるんですよ。減らせと言う人もいるよ。議員なんか減らせというのものもあるし。それがどこまでなのか。その辺もよく聞かないと、市民を納得させるんだったら。もっとそれも含めて何かあるでしょうかね。あるんじゃないですか。選挙で真意を問うしかないんじゃないですか。と思いますけれども。大事なことなんで。

○鈴木委員長 森本副委員長。

○森本副委員長 今、平山委員から、1人、2人の票で決めていいのかとありましたけれども、議運は発議するかどうかだけで、決定するのは本会議なので、その場での人数がどうなるかはちょっと分からないし、もちろん議運で上げたからって否決される可能性もあるわけなんで、ここで1人、2人で決まるというわけじゃないというのは御理解ください。

○鈴木委員長 小島委員。

○小島委員 市民の意見ということで言わせていただければ、やはり今回の不祥事で議員定数を減らしたほうがいいという意見は、私はたくさん聞いております。そういう面では、市民の意見は間違いなく定数削減を賛成しています。それは私は、いろいろとあったときに聞きます、やっぱり。

そういう面で、その判断が、市民から受けたものを全部やる必要はあるかどうかというのは、やっぱりあるんですよ。でも、市民の意見という言葉をいけば、間違いなく賛成多数です。だと思います。

○鈴木委員長 では、中村委員。

○中村委員 今、小島さんの言ったこと、市民の声と言いますが、以前はもう市民から要望の。

〔「要望書まで出て」と言う人あり〕

○中村委員 そう、それを取って定数削減を申し込まれて、実際にやって、それで市民の声がといったら、20人でもいい、22人でもいいって、いっぱい意見があったんですよ。それに従ってやれば、もう今回は20人か22人ぐらいになるという意見がここでは出ていいわけですよ。もうそういうことで下げれば。

だから、市民は常に、己を律して頑張ってくださいと言っているわけですから、やはり市民の声も様々で、あのとき、このままで32人でもいいというときもあったので、それはやっぱり市民の声は分析したことないですが、あれだけ要望書が出てきてやったときでさえも、議会で議論して、議論して、議論したときが26人で止まってしまったという経緯ございまして、あのとき私どもと公明さんは24で進めたわけですが、やはり皆さんの意見を大事にしたい、多数決では駄目ですよという、そういう尊重、尊重したやつで決まったのは。

ですから、今言ったように、数で決められるということで、特殊なものは数で決める、特殊じゃ

ないものは皆さんで決めるんだよということのこの議会運営をされれば、何のルールもなくなっちゃうんですよ。今回は特殊ですから、多数決で一発でいきますよ。いや、だけれども、普通は少数意見を聞いてみんなで議論しますよと。議論の場ですよ、議会は。

だから、それをやっぱり数があるからといって、某議員が言っていましたよ、数で運営するんじゃないって。その言葉もやっぱりしっかりと聞いた中で議論をして、ある程度、皆さんが決まって、これなら納得するねというのがやはりないと。我々は、20人でも22人でも構いませんよ。ですから、やっぱりそれであれば、やっぱり市民に対してしっかりと姿勢を示すという皆さんの合意形成が立つのであれば。

[発言する人あり]

○鈴木委員長 どうぞ、続けて。

○中村委員 委員長、ああいう言葉を使って傍聴者がやっている事態が、議会ちょっとおかしいというふうに見られていますので、やっぱり委員長からも注意していただければと思います。議論出なくなっちゃう。

○鈴木委員長 すみません。今のは注意しなければ。もう出ちゃったんですけども、出る前に注意しておけば。

○中村委員 黙って出るなら構わないですよ。

○鈴木委員長 そこは、委員長、副委員長として。

ほかにございますか。

室井委員。

○室井委員 ちょっと確認をさせていただきたいんですが、今期、私たちが、議会の中で決定して削減してというのは、現職の私たちはこうやって話しするから分かっているんですが、今の段階において4月にも立候補したいと言っている方が、今現在で何名かいらっしゃいますよね。そ

の方々はまだこの内情は知らないわけじゃないですか。それを早めに、先ほど小島さんも言われましたけれども、早めにアナウンスするということは大切だと思うんですが。

あと、これが遅くなることによって、だったら立候補しなかったのにとかいう、何か差が出ちゃうのが申し訳ないというようなところがちょっと感じるんですが、これは致し方ないことなんでしょうか。そこだけちょっと聞きたかったんです。

○鈴木委員長 それは、私はちょっとそれはコメントできません、その件に関しては。そういう考え方がありますよね。それは小島委員の言っていることを理解している話なので。

先へ進めるには、採決すればどんどん決められるんですけども、ただ、本当に重要なことではあるので、同じ意見の繰り返しになれば、もうどこかで、じゃ次どうしましょうかという件なんですけれども、意見が出尽くしたのであれば話は進めなければいけないと、今、思っているところなんですけれども、皆さんもうちょっと考えが。

中村委員。

○中村委員 いろいろ意見出まして、おおむね若干の方向性出たんじゃないかとも思う。ですから、そういった結果を、また今日これ出席されている方は8名、傍聴されている方が何名かいましたけれども、半分ぐらいの方はまだこの結果は分からないでいるわけですから、こういうふうには、方向性に行く可能性がありますよぐらいの話をみんなにして、もう一回議論して、それでまた議会運営委員会を開いていただいて詰めていったらどうですか。今日決めるということですか、それとも。

○鈴木委員長 星委員。

○星委員 大体意見って半々ですよ、今。半々だと思うんですよ。方向性って、今、中村委員おっしゃったんですけども、今そこさえもつかめて

いないような状況なんじゃないかなって、今、思ったんですけども、これをどのようにまた進めていくのかなというところが。

○鈴木委員長 もう一つあるのは、時間的にあと1週間ぐらい、じゃ、待てるのかというのをちょっと事務局的に。  
係長。

○長岡議事調査係長 日程の話でいきますと、今月中に再度議運を開く。1月29日は開催の可能性はあるんですけども、それ以外の日程というのはなかなかちょっと都合が、平山議員の監査の関係とかそういうのを考慮しますと、ちょっと難しいかなというふうに思います。あと開けるのはあと1回。

○鈴木委員長 そうすると、そこで減らすか減らさないかを決めないと、もう結果的には今期は間に合わないという話ですよ。

○長岡議事調査係長 手続、先ほど全協を通す通さないとかという、そういうふうな議論もある中ですので、例えば議会の初日で、もう議決一発で決めるんだということであれば、本会議の初日、21とかでというのはありますけれども、ただ、事務局側からちょっと言わせていただきますと、条例の改正とか、委員会条例の改正とか、そういった議案の準備等ございますので、やはりできれば1月中に決めていただきたい。

○鈴木委員長 森本委員。

○森本副委員長 今、中村委員からもう一遍持ち帰ってって言ったんですけども、恐らく皆さん変わらないです、意見は。変わらないと思います。

それで、結局、反対する人は、できるだけ長く延ばしたいという気持ちは分かるんですけども、でも、変わらないのであれば、まずここで全会一致がいいのか、それとも過半数がいいのかというのを。変な話ですけども、多数決で決めて、そ

の後、全会一致のほうが多いのであれば、全会一致でやるんだったら、今回は議運からでは出せないということになると思います。恐らく。

その全会一致がいいのか、過半数がいいのかというのを決めて、過半数でいいんじゃないかということになれば、ここで過半数を取って議運で出すかどうかを決めるという方法しか、私はないと思います。

既に、皆さん、会派で話し合ってきているわけで、しかも、一人会派の人もしたらいいんだという意見を、意思表示をしているわけですから、それを踏まえて、多分、今日、採決を採るのが私はいんじゃないかなというふうに思っています。

数がいろいろ違うって言っていますけれども、考え方でいうと、各会派の人数と一人会派の数と大体、今、15対9で削減のほうが多いです。人数だけ見れば、人だけで見れば。だから、多分、今の本当にそのとおり、みんな会派の中で言っている人たちが、全会一致、そのままというのであれば、恐らくこれは可決されてしまう話だとは思いますが、まず議運で出すかどうかという部分で考えるのであれば、まず全会一致で決めるのか、それとも過半数で決めるのかということのことで一回採決採って、その後どうするかということ、その全会一致でやるのか、ここは採決するかしないかというのを決めたらどうかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○鈴木委員長 じゃ、小島委員。

○小島委員 今、言ったように、まずは全会一致か多数決というのを決めるということと、あと、多数決になった場合には、やはりこの議運で決めるんじゃないかと全協のほうがある程度。

○森本副委員長 議運の話です。議運で出すかどうかを決めるのが、多数決にするか全会一致にするかの話。議運での話です。それをどうするかって

話、議運の決定をどうするかという話をしています。全体の話はまだこれから、その後。

○鈴木委員長 全協で採決はしない。こういうことが決まりましたという報告で、本会議で採決する。

○小島委員 どこで、要は、その定数をやるやらないは別として、多数決で決める場所は。

○森本副委員長 多数決にするかどうかというのは、議運の話ですからね。

○鈴木委員長 相馬委員。

○相馬委員 これまで議会運営委員会は、できる限り全会一致を旨とするというふうな議会運営の方針が、私が議運長やったときもそうですが、その前に吉成議長が議運長だったときもそうですし、そういうふうな方向性を持ってやってきました。ただ、どうしても議運で全会一致にならないという案件については、これまでも多数決やってきましたので、全会一致する場合は、そうじゃないんだけれども歩み寄って、まあ、じゃ、それでいきましょうかというようなことで全会一致にしてきました。

でも、今回はもうまるきり歩み寄りができる状況ではないということであれば、もう多数採決をするほかないんではないかなというふうに思いますが、先ほど中村委員が、もっといろんな議論を尽くしてということもありましたが、2年前といえますか、今期の2年間をかけてやった結果が正式に出ておりますので、それを踏まえすと、やはり削減する方向でいくべきなんだろうというふうに個人的にも思いますし、決する方法は、もし歩み寄りがない、議運の中ですよ、今この8人のメンバーの中で歩み寄りがないのであれば、多数決採決をせざるを得ないんじゃないんでしょうかという意見でございます。

以上です。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

ほかに。

今は採決の仕方、決定の仕方、進め方なんですけれども、相馬委員がおっしゃるように、本来全員一致が望ましいわけですけども、もう歩み寄りがないと、平行線だと。でもここは決定、この事項は、執行部の議案じゃなくて、あくまで自分たちの、まさに自分たちの身を切ることの話なんで、それを決めるのは、本来、一番、話戻っちゃうんですけども全員一致がいいかな、まさに全員一致がいいかなと思うんですけども、ただ、それだと話が、委員長としては話が進まないと思うので、ここはいろんな決めることがあることも重要で、時間がない中で話を進めなければいけないとなれば、そういうことも飛ばして、まず一番重要なことは何か、優先順位何かというと、減らすかどうかということに皆さんの考えがあるなら、私が採決採ってしまえば決まってしまうので、それでいいのかということをもう一度皆さんに確認して、採りますよ。

これ、皆さんで決めることできるんです、ここで。私は確認すれば判断できるので、来年1年間ありますよという事案でもないの、じゃ、全会一致か多数決でやるかというのをお諮りして大丈夫ですか。

○中村委員 今日、会派の意見を皆さんで交換するという形で来たものですから、ある程度交換の中での議論をするということで、決を採るという認識がちょっとなかったものですから、私も急遽。そういう認識で来たので、これ、やるかやらないかというのを早急に決めるということをも自分自身も考えていなかったの、急にやるということになると。

構わないですよ、やって、それはやってもらっても。だから、それをやっぱり、今やるかやらないか、随分委員長も困っていたので、決を採って

もらっても何でも構わないですが、やはりちょっと余裕を持った意見交換をできれば。委員長としてどう思うかちょっと聞きたかったの。

○鈴木委員長 さっき森本委員も言ったように、今日までに会派で話はしてきてください……

○中村委員 話はしてきたんで、結果を言って、皆さん正直に話をして。

○鈴木委員長 森本委員。

○森本副委員長 前回の議運でこの話合いをしたときに、このことに関しては時間がないという話をしています。時間がないので早く決めないといけない。ですから、20日の日に決めないと次の日は間に合わないから、それまでに意見を取ってきてくださいということで、各会派に言っています。

ということは、ここで決まるということをおもなかつたという意味が分からないです。だって、この20日に決めないと時間なくなっちゃうから、この日に決めるために会派で話し合ってきてくださいねと言って振っているのに、ここでは意見を言うだけで採決まですると思わなかつたという話はちょっと不思議です、すごく。物すごく不思議な御意見だなというふうに思います。

○鈴木委員長 中村委員。

○中村委員 重要な案件ですから、それを決めるのは少し皆さんで議論していく型になっていくのかという認識ですから、それを今日決めないのがあんた認識不足だって言われても私は納得しないんで、それは理解してください。常にこういう会議は議決をしなければいけないということは感じていますが、議会だって議論して最後に議決案件つて出るわけですから。

○森本副委員長 最終決定じゃないんですよ。

○中村委員 それは分かりますよ。ただ、一つ一つのものを決めていくということをやっているの分かるんですが、急に皆さん意見聞いて、一人一

人、もう一回聞いたらどうですか。じゃ、ここで決採ってってみんな言うんならば、決採ればいいんだし。

○森本副委員長 ここは最終決定するわけじゃないんですよ。議運の議運での意見なんで、最終決定しようとしているわけじゃないんですよ。

○中村委員 分かりますよ。だから、今これを賛成多数やるか、全会一致で決めるかという話でしょう。だから決定じゃないけれども、じゃ、物事の一つの決定は過半数か全会一致かということ、今、決めているわけだから。だから、私もこの間、確認しているわけだから。

○鈴木委員長 要するに、ここで採決を採っていかという話なんですけれども、採る前提で、今、お伺いしました。過半数で決めていいのか、全会一致で決めるかという話を、その後どういう進んで条例改正の展開になるのか、皆さんもう知っていると思うので。

しかも、もしかすると自分がぎりぎりの票で前回当選していれば、次、当選するかどうかという、本当にその議員のこれからの本当に関わる重要な、本当に重要な内容だと思うんですよ。だから簡単に決めたくないんですが。

○森本副委員長 全会一致で決めるか、多数決で決めるかを決めるんです。

○鈴木委員長 決めることは、本当はまだほかにも、何人とか、審議することは幾らでもあります。それは前回は議運でも審議して、2年間ぐらいかけて確かに審議はしました。それは相馬委員がおっしゃっているように、審議して、それを次の改選後にそういうことを全部踏まえて、条件はほとんど整理してありましたから、それでやるということだったんですが、今回、異常事態が起きたので早めるかどうかという話だと思うんですけども、2人か、まだ4人かという議論もしていない中で、

もう削減するかどうかという話、最低でも2名はもう決まりということですから、そういう形で行くでしょう。減らしたらもう2名は減らすという決まりでしょうから、数はまだ今日決めていないわけだから。

○森本副委員長 まず、決め方を決めようというだけ。決め方を決めようと言っているだけ。

○鈴木委員長 今、時間に後ろから背中を押されているので、どうするんだという感じなんですけれども。

○森本副委員長 全会一致なのか、多数決なのかを決める。

○鈴木委員長 それ決めるということは、ほぼ決まりだと思っているので、簡単なことじゃないと思うんです。それを決めるということはもうここは決まっていくので、だけれども、一人一人の議員の今後の在り方にすごく影響してくる。その人の後ろにはいろんな市民がいるわけだから、あまり納得いかないまま結論は出したくないんだけど、私が困っているのは、時間的なプレッシャーです。それだけですけれども。

逆に言うと、皆さん、助け船。もうこれでいきますか。どうしますか。決めたら次行くよ、どんどん。

〔「決め方ということは、もう削減なら削減でいくということでしょう」と言う人あり〕

○鈴木委員長 じゃ、暫時休憩にします。

休憩 午後 3時31分

再開 午後 3時35分

○鈴木委員長 では、休憩前に戻りまして会議を再開いたします。

先ほどの休憩前の全会一致か過半数で決めていくかということにつきましては、皆さん、一応ここで御意見を、議事録残りますから、採決の前にちょっと御意見があればお伺いします。

中村委員。

○中村委員 私は、過去にもこういった案件を何回か議論して今日に至っているんですが、やはり全会一致に近い、皆さんが、議員各位が理解を深めて、それでここで皆さんでやっていこうという感じの中での定数削減というものを思っている人間として、できれば、どちらに一つというのは、全会一致で決めていくのが私は筋じゃないかと思っておりますので、全会一致ということでお願いします。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

そのほか御意見ございますでしょうか。

小島委員。

○小島委員 3月、目の前に、もう今期が終わって4月に選挙というものを控えているという中での決断ということであれば、やはり全会一致は不可能に近いと。いろいろ、みんなの意見が統一するというのはなかなか難しいというのが現実ですので、ここへ来てからではやはり多数決しか採る手法はないのかなと思います。それで、削減するも、現状維持もありだと私は思っています。

以上です。

○鈴木委員長 ほかに御意見ございますか。

〔発言する人なし〕

○鈴木委員長 では、ないようですので、全会一致か、多数決かの判断をここで採決を採ります。

挙手をお願いしたいと思います。

じゃ、全会一致でやりたいという方、挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 2名。



そうすると、全体が7でしたっけ。7分の2で。

○長岡議事調査係長 一応、反対というか賛成多数も、例えばどっちも挙げないという意見もあるの  
で。

○鈴木委員長 じゃ、多数決がいいという方、挙手  
お願いします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 4名。ありがとうございます。

では、7分の4で多数決が多い。

では、この審議については、採決に当たっては  
多数決で判断をしていきたいと思えます。

では、大変重要な事項について、今、皆さんの  
御意見を諮ります。今回、4月の改選には、定数  
減で臨むべきか、現行のままでいいのかというこ  
とを諮っちゃっていいですね、もうここまで来た  
ら。

一回、一応、諮っていいかという前に、じゃ、  
皆さんの意見。これから諮りますが、ここで賛成、  
反対みたいな形で意見を言ってもらって。

〔「あと減数」と言う人あり〕

○鈴木委員長 それについては、またその後にした  
いと思う。まずは、減らすか減らさないかで行  
かということ諮りますので、じゃ、4月議会、  
定数減ということで、人数はその決まった後に決  
めていきますから、減という方向でいいかどうか  
についてお諮りしたいと思うんですけども、御  
意見をここで一回、皆さんにお伺いしたいと思います。

〔「やったよね」と言う人あり〕

○鈴木委員長 いいですか。

では、もう本当にすごく非常に重要な事項だ  
と思うんですが、当議会運営委員会としては定数削  
減ということで3月議会に提案するというので、  
定数削減でやるべきだという方の挙手をお願い  
いたします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 ありがとうございます。5名です。  
終わりでいいですね。

〔「はい。半数超えていればもうこれで終  
わりです」と言う人あり〕

○鈴木委員長 そうすると、議会運営委員会とし  
ては、定数削減という方向でこれから協議しま  
す。分かりました。

では、人数だけ。

○森本副委員長 あとは人数どうするか。

○鈴木委員長 委員会の数は、人数を決めるときの  
判断材料であって、あくまで人数で決める。  
係長。

○長岡議事調査係長 先ほどは変えるべきか変えな  
いべきかで賛成多数、変えるが5名ということか  
なとちょっと理解したんですけども、次は、今  
期なのか来期なのか。

○鈴木委員長 すみません、じゃ、もう一度改めて。  
今期変えるべきか、来期変えるべきか。今期変  
えるべきだという方、挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 大丈夫ですね。

じゃ、今期変えるということで定数削減は決定  
しました。

あとは、人数をどうするかということは残っ  
ています。時間かけてやりたいと言っていたん  
ですけども、もう時間ないのでここで決めてい  
きたいと思うんです。いろんな理由が本当は出  
てくるはずなんです。委員会の数とかいろいろ。  
でもそれすっ飛ばしてやりたいということから、  
意見をちょっと一通り聞いて、人数について諮  
りたいと思います。

じゃ、平山委員からお願いします。

○平山委員 減らすといえば、先ほど私言ったと思  
うんですけども、2名減で、これがあったとい

うこともありましたが、2名は欠員2名なんです。それで本当に減らしたことになるのかね、覚悟を決めて。

少なくとも、現状でいうと定数から4か6か、そのぐらい減らさないと決意が見られないんじゃないですかね。自分の当選、落選、関係ないから。それは議員の覚悟だから。そのぐらいしなかったら、今回の場合あれじゃないですか。通常だったら2名ぐらい減らせばいいけれども、今回そういう意味ですよ。不祥事で市民に対する姿勢。やるんだったらそこまで。今の定数から。

○星委員 今期は2名で、改選後にまた検討。

○鈴木委員長 シンの相馬さん。

○相馬委員 今期の削減は2。

○鈴木委員長 2名ですね。分かりました。

小島委員。

○小島委員 私も今期は、結局、急に減らすという状況でございますので、急激に減らすというのは非常にいろいろ問題点も多くなりますので、2名がやっぱり一番いいだろうと思っています。

○鈴木委員長 室井委員。

○室井委員 正直、本当にどこに持っていったいいかというのは悩んでいるところではあるんですが、平山委員さんが言ったように、はっきりと要は示すのであれば、やっぱり4から6というふうに大幅にいかないと、市民の方は納得しないんじゃないかというふうには考えています。じゃ、4で。4でお願いします。

○鈴木委員長 中村委員。

○中村委員 変えるのであれば、今、室井委員が言われましたように4人ぐらいが適当じゃないかという感じは持っております。

○鈴木委員長 4から6じゃなくて、具体的に何人がよろしいでしょうか、平山委員。

○平山委員 5。

○鈴木委員長 では、当委員会としては、減らすということ、3月議会に提言をすべきだろうということなので、じゃ、その人数はどういうふうにするかという話ですから、これを決めると今日は会議終わりなんで。

2の場合は、小島委員は急激にやるものだから、取りあえず2名、あと公明党の星さんは、取りあえず2名で、来期もまた検討すると。

市民に対する、今回の不祥事2つ、実際2つあるかもしれない。それに対する、市民に対する姿勢を示すなら5名という人と4名という人がいます。

○平山委員 4名かな。委員会が同数になっちゃうんだね。4にしないと、議長抜くと半々になっちゃう。

○森本副委員 そうすると、4か2か。

○平山委員 4だね。

○鈴木委員長 4か2ということで採決を多数決で採っていくことで、皆さん、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○鈴木委員長 よろしいですね。

では、採決したいと思います。

4か2で採決いたしますので、まず、最初に2名の方の人数を確認します。取りあえず2名からいきます。

2名がよろしいんじゃないかという方、挙手をお願いいたします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 4名。

じゃ、一応確認します。

4名がよろしいという方、挙手お願いします。

〔賛成者挙手〕

○鈴木委員長 3人。

そうしますと、多数決ですので、これは2名減ということで議長のほうに報告するというところで

決定です。

以上です。

そうしますと、本日の会議としましては、議長から託された案件に関しては、答申としまして、答申ですよね。議長のほうには人数は2名減らすということで、決定ということで、これで会議は終わりだね。

○森本副委員長 ちょっと確認していいですか。

発議は、議長、それとも議運長。

○長岡議事調査係長 条例改正、通常、議運に来て、議案とかも、また今度、議運で決定すると思うんです。そうすると、議運長からの説明、発議はでも議運ですかね。

○鈴木委員長 諮問は議長だけれども、発議は委員長。

○長岡議事調査係長 そうですね、権限も渡った上で、それで、最終的な採決、本会議は議長が諮っているというていかなって。

○鈴木委員長 なるほど。提案は議運から提案するということですね。分かりました。ありがとうございます。

○長岡議事調査係長 一応確認なんですけれども、2名減ということで、委員会のほうは、現在、総務と福祉が9名、そして、建設が8名。ですので、これは全部の委員会を8名ずつにして三八、二十四という考え方でよろしいですか。

○鈴木委員長 今、事務局から確認をされましたので、改めて各委員会、今現在、3委員会です。各委員会、今、9のところと8のところがあるんですけども、ちょうど三八、二十四という考え方があるんですが、定数がまだ議員がいないところあるんですけども、来期に関しては24名、各委員会8名ということで、皆さん、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○鈴木委員長 じゃ、全会一致ということでお願いします。

あと何かございますか。

○長岡議事調査係長 もう一点だけ。

本会議のほうも、こちらは過半数での決ということでよろしいでしょうか。

○鈴木委員長 じゃ、お諮りします。

この判断は、採決は、本会議上では過半数で可決するというでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○鈴木委員長 全会一致ということで、よろしくお願いします。

では、以上で今日の協議事項は全て終了いたしました。皆さんどうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

○長岡議事調査係長 委員長、もう終わりでいいんですけれども、次回の議会運営委員会なんですけれども、3月定例会議のための議運です。2月14日金曜日10時からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。303で。

〔「その他はないんですか」と言う人あり〕

○鈴木委員長 ありますか。すみません。

じゃ、事務局大丈夫ですか。

○長岡議事調査係長 はい。

○鈴木委員長 その他カットしちゃったんで、ごめんなさい。

○相馬委員 もう一度確認ですが、今回の定数削減についての議案は、例えば2月の全協の後に臨時会議を開いてやるとか、それから、3月議会の開会日にするとか、そこまでは今日決定しなくても大丈夫だという理解でいいですか。次、いきなりもう本会議。今の話だと次の議運が、もう3月議会用の議運だということなので、もう本会議というか、3月の初日でやるか、けつでやるか、最終

日にやることはもうないと思うんですけども、やるか、もしくは2月の全協にこの議題だけについて臨時会議を開いてそこで採決をするか。

先ほど市民に早めに説明をということであれば、執行部案件ではございませんので、臨時会議でも、そこまでに会派の意見がまとまらないということももうないのかなというふうに思いますので、その辺についてはどういうふうに考えるか、ちょっと。

○鈴木委員長 事務的なこと、日程的なことあるの  
で、まずは事務局のほうから聞きたいと思います。  
係長。

○長岡議事調査係長 今回、2月の全協が3日です。  
2月3日です。ちょっと時間的に結構厳しいなと  
思っていて、可能であれば本会議初日でして  
いただけると有り難い。

○相馬委員 分かりました。

○鈴木委員長 今、相馬委員からちょっと意見があ  
りまして、事務局の答弁もあったと思うんですけ  
れども、日程的に厳しいので、3月議会の初日に  
この案を採決するというので、皆さん、よろし  
いでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○鈴木委員長 じゃ、そういうことでよろしくお願  
いいたします。

その他、ほかに皆さん何かございますか。

〔発言する人なし〕

○鈴木委員長 事務局ございますか。

〔「ございません」と言う人あり〕

○鈴木委員長 ないですね。

じゃ、委員の皆さんございますか。

〔発言する人なし〕

○鈴木委員長 ないですね。

## ◎閉会の宣告

○鈴木委員長 改めて、これで今日の会議をこれで  
終了いたします。

お疲れさまでした。

閉会 午後 3時52分

—————◇—————